

横浜市 浸水ハザードマップ (泉区)

保存版

1 情報の入手方法と日頃からの備え

ハザードマップを使って、お住まいの地域の危険度を把握し、適切なタイミングで避難行動を起こせるよう、日頃から情報収集をしましょう。

自動配信されるもの(PUSH型)

- 横浜市防災メール **事前登録**
あらかじめ登録したパソコン・携帯電話に防災情報が配信されます。
- 防災アプリ **事前登録**
Yahoo!防災速報アプリをインストールしていただくことで、横浜市の防災情報をスマートフォン等で受信できます。
- アプリインストール
アプリをインストール
- グッズ
避難時の持ち出し品(防災グッズ)、洪水浸水想定区域内の要援護者施設等の事業所に配布されます。
- 緊急速報メール
緊急速報メールに対応した携帯電話に配信されます。
- 観水地点情報 (設置のない区もあります)
屋外スピーカーからの音声放送やサイレンにより、災害発生時の危険性や避難情報等をお知らせします。
- 緊急情報放送
テレビ・ラジオ等から緊急情報を発表。重要かつ緊急な災害情報を放送します。
- 広報車による広報
テレビ・ラジオ等から緊急情報を発表。重要かつ緊急な災害情報を放送します。
状況に応じて、必要な地域へ広報車が出動します。
また、職員を派遣し、消防車へリポーターを乗務させることもあります。

自身で情報収集するもの(PULL型)

- ホームページ
横浜市 防災情報
気象情報や河川の水位、潮位等を掲載しています。
- 防災情報ポータル
避難時の状況及び避難所の開設状況を確認することができます。
- 降水ナウキャスト
現在の雨の動きや今後の動きを確認することができます。
- 横浜トップページ(緊急情報)
Twitter(横浜市防災ツイッター) @yokohama_saigai
テレビ(ケーブルテレビ、データ放送など) ●データ放送
●tvk(テレビ神奈川)データ放送 ●ラジオ(コミュニティFMなど) ●コミュニティFM放送

ハザードマップで自宅と避難場所を確認しよう

- 自宅付近が浸水したときにどのくらいの水深になるかを確認しましょう。
 - 自宅から避難場所までの道のりや方向を、ハザードマップに書き込んでおきましょう。
なお、災害の状況により、開設する避難場所は異なります(ハザードマップ参照)。避難する際は、市・区ホームページ等で開設している避難場所を確認してください。
 - 地域では、このハザードマップを活用した訓練を行い、災害時の適切な行動につなげましょう。
- ### 避難時の持ち出し品を確認しよう
- 避難時の持ち出し品は日頃から準備し、すぐに持ち出せるようにしておきましょう。
 - 持ち出し品はできるだけ小さく(ラジコ、飲料水、懐中電灯、医薬品、ベビー用品、マスクなど)。また、リュックタイプなど、両手があくものに収まる程度にしましょう。
 - 避難場所には、食料、水、タオルなど、必要なものを持参しましょう。
- ### 側溝や雨水すを点検しよう
- 側溝や雨水すを必ず点検しましょう。
 - 雨水すの吸い込み口が落ち葉やごみで詰まると、道路浸水などの原因になります。
 - 雨水すやし漏れ溝の上に車入れ・トラックなどを置かないようにしましょう。
- ### 浸水に備えよう
- 家にあるもので浸水を防ぎましょう。土のうやプランター、家庭にあるごみ収集袋などを利用して水のうを作ると、浸水を防ぐことができます。
 - 大雨の際には、洗濯機、トイレ、風呂場の排水口など思わぬところから水が逆流することがあります。排水口をできる限りふさいでください。
- ### 家族でできる浸水防止対策の一例
- ごみ収集袋(5リットル)を二重にし、半分に凍らせた氷を入れ、水のうを作ります。
 - 水のうと長めの板などを組み合わせて、浸水を防ぎます。
 - プランターをならべ、レジャーシートを巻き浸水を防ぎます。

避難の考え方

- 身の危険を感じる場合は避難を開始してください。
- ### 安全な場所へ避難(水平避難)
- 避難場所(近隣の公園、土砂災害警戒区域外及び浸水想定区域外の施設など)へ避難しましょう。
 - 必ずしも避難場所を開設するわけではありません。ハザードマップ(参照)避難する際の避難場所が開設されている市・区ホームページ等で確認してください。
- ### 近所へ声をかけよう
- 高齢者の方、子ども、障害のある方、目が見えない方等を助けるため、早い段階での声かけが必要です。地域の皆さんで協力して安全に避難しましょう。
- ### 安全な経路で避難しよう
- 河川沿いや急傾斜地(崖)沿いの道は避けて、大規模な浸水が想定されている場合や、雨の音が聞こえない場合は、橋を渡る際は十分に注意して、迂回するようにしましょう。
- ### 地下・地下施設の浸水は危険です
- 浸水の危険がある場合は、速やかに地上に避難しましょう。
- ### 建築物の2階以上または、5階以上の建築物へ避難
- 建築物の2階以上または、5階以上の建築物へ避難する場合は、建物内の構造や階層の状態を確認し、安全な場所へ避難してください。
- ### 避難の服装
- 避難時は、長袖・長ズボン、手袋、靴を履いてください。

浸水ハザードマップの使い方

「1 情報の入手方法と日頃からの備え」をご覧ください

浸水想定区域以外の方も、日頃から浸水に備えておくことが重要です。

あなたのお住まいや職場で浸水が発生するおそれがありますか?

「内水ハザードマップ」(下水道や水路からの浸水)
「洪水ハザードマップ」(河川氾濫による浸水)の、浸水想定区域を確認しましょう。

「内水ハザードマップ」「洪水ハザードマップ」の浸水想定区域となっている方

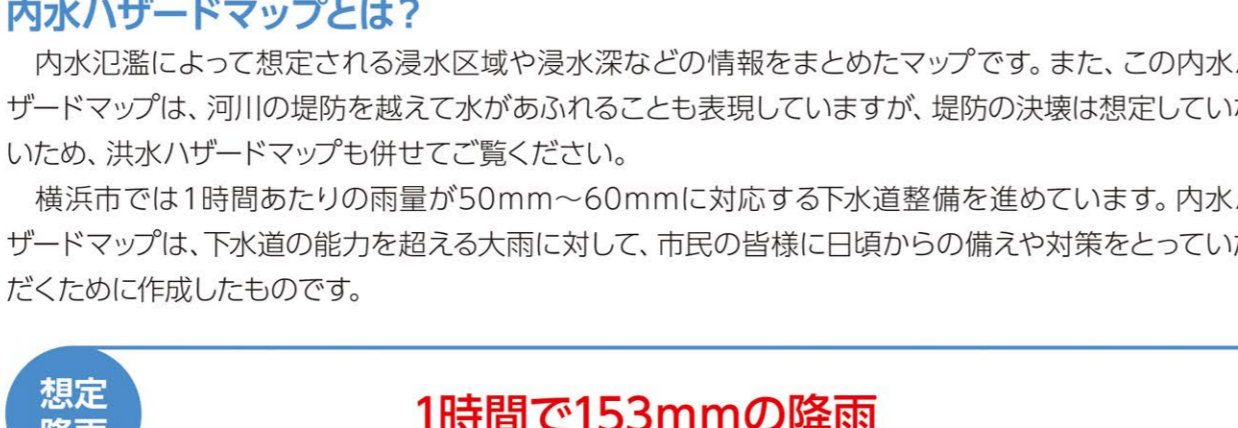
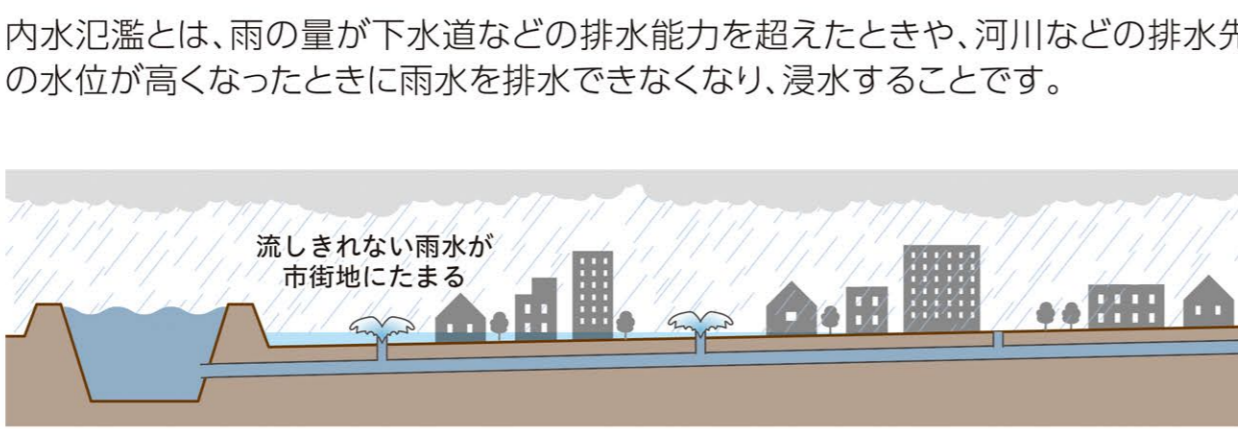
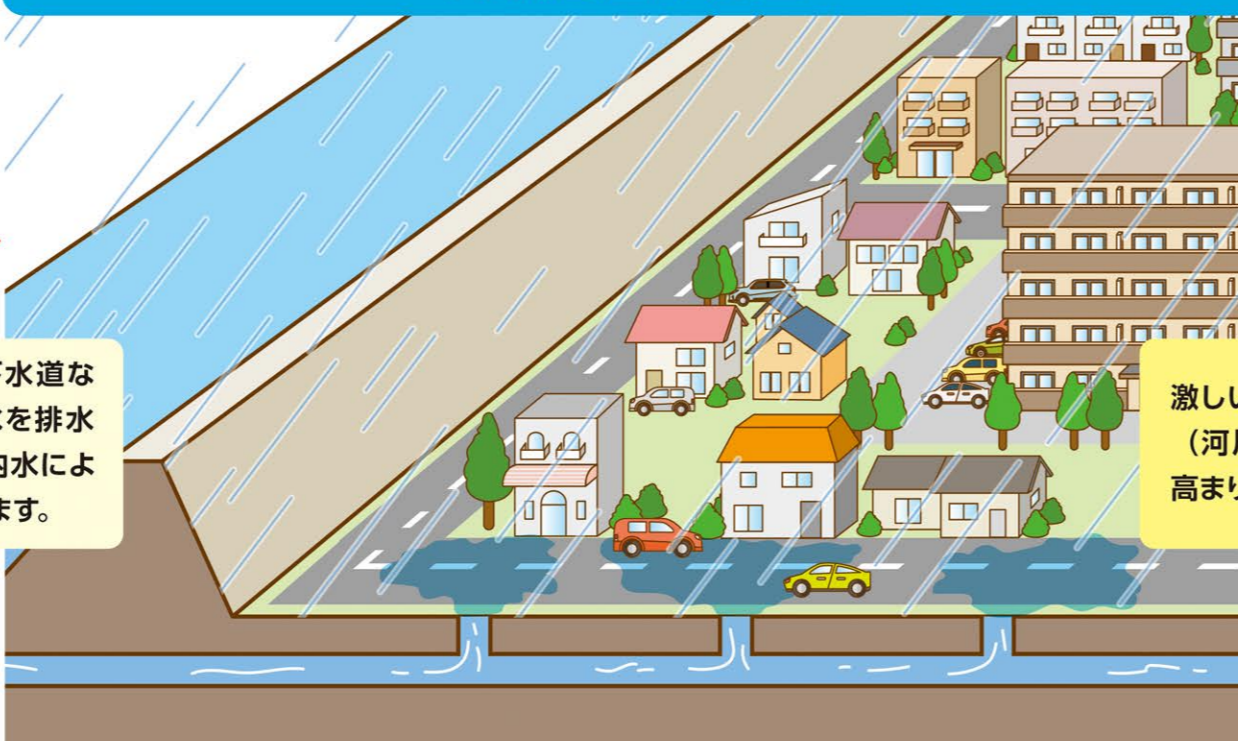
⇒「1」内水氾濫と洪水(河川氾濫)の発生について」をご覧ください。

マイ・タイムラインを作成しよう

マイ・タイムラインとは、台風や大雨の水害等、これら起こるかもしれない災害に、一人ひとりの家族構成や地域環境に合わせて、あらかじめ時系列で整理した自分自身の避難行動計画です。

横浜市 令和4年5月発行

2 内水氾濫と洪水(河川氾濫)の発生について



想定降雨 1時間で153mmの降雨

3 避難情報の受けとれ方

避難情報の受けとれ方

避難情報の受けとれ方

避難情報の受けとれ方

避難情報の受けとれ方

3 風水害避難判断シート

このシートは、自宅周辺の災害リスクを把握し、洪水による浸水が想定される場合の避難方法、避難のタイミング等をあらかじめ確認して自らの避難行動につなげるためのものです。



想定最大規模	流域平均 632mm/24h	あなたの家の場所に 塗られている色	あなたの家の想定浸水深 m~ m
想定最大規模	流域平均 632mm/24h		m~ m

4 備蓄をしましょう

大雨による災害が発生したとしても普段と変わらない生活を自宅で送れるよう、備えをしておくことが大切です。下の例を参考に必要な物を用意しましょう。

備蓄品の例

飲料水(目安:1人1日3日)
食料(保质期の長いもの、アレルギーのある方は、自分に合ったものを備蓄しましょう。)

停電対策
LEDランタン
懐中電灯
予備の乾電池
モバイルバッテリー

断水対策
からだし拭きシート
ウェットティッシュ
歯磨きシート・液体歯磨き
ラップ

その他日用品
ティッシュ
生理用品
常備薬

各家庭の状況に応じて必要となるもの

乳幼児がいる家庭
紙おむつ
離乳食
母乳・紙コップ
母子手帳・お薬手帳

介護が必要な方がいる家庭
紙おむつ・紙パンツ
補助具等の予備
常備薬

ペットがいる家庭
フード・水
猫用トイレ
子猫の首輪や首かけリード
ペットシート・糞尿処理用品
ペット安心手帳

高齢者・障害者
おしりふき
粉ミルク(液体ミルク)
スプーン・ストロー

Point
●備蓄の目標は1週間分!最低でも3日分は備蓄しましょう。
●定期的に古いものから消費し、消費した分を補充しましょう(ローリングストック)。

5 避難用の持ち物を用意しよう

自宅外へ避難する時に必要となる持ち物を備蓄品とあわせて用意しましょう。
※行政が開設する避難場所では、原則、物資・食料の配給はありません。

避難用の持ち物の例

- 飲料水(目安:1人1日3日)
- 食料(保质期の長いもの、アレルギーのある方は、自分に合ったものを備蓄しましょう。)
- ティッシュ
- からだし拭きシート
- ウェットティッシュ
- ウェットティッシュ
- ウェットティッシュ
- ウェットティッシュ
- ウェットティッシュ

Point

- 避難用の持ち物は両手を使えるリュックタイプの袋などにまとめておきましょう。
- 避難の妨げにならないように、軽コンパクトにまとめておきましょう。
- 自分や家族の状況に応じて必要な物を選びましょう。
- 自分に必要な物の優先順位を決めて準備しましょう。

7 情報を入手しましょう

様々なツールを活用して最新の情報を入手しましょう。

避難に関する情報の収集

- 区防災・災害対策ページ
- 横浜市 防災情報ポータル
- 広報車
- 気象庁
- 横浜市水防情報
- 神奈川県土砂災害情報ポータル

8 停電について

停電が発生した場合や電気設備のトラブルに関するお問い合わせは
東京電力パワーグリッド株式会社 ☎0120-995-007 ☎03-6375-9803

LINE

- 1.LINE公式アカウントを「友だち追加」
- 2.公式アプリ「TEPCO速報」をダウンロード
- 3.Twitter公式アカウントを「フォロー」
- 4.HPで「停電情報」を確認

9 自宅が被害を受けたら(罹災証明書の申請について)

各種被災者支援制度を利用する際や保険金の請求等に罹災証明書が必要となる場合があります。風雨が収まった後被害状況を把握し、罹災証明書の申請を早めに行うことが重要です。

被害発生

1.被害者の写真を撮る

2.被害者の写真を撮る

3.罹災証明書を申請

Point

- 写真撮影は、カメラの設定などによって撮影日時がわかるように撮影してください。

家の外の被害

- 1.被害箇所が特定できるよう、「目印」の写真を撮影しましょう。
- 2.被害箇所の詳細な状況がわかるよう、[4方向]から写真を撮影しましょう。
- 3.被害箇所が発生している場合は、浸水の深さがかかるようメジャーなどをあて撮影しましょう。

家の中の被害

- 1.できる限り被災した部屋の全景が入るよう「目印」を撮影しましょう。
- 2.被害箇所の詳細がわかるよう、「隣り」の写真を撮影しましょう。
- 3.被害を受けた部屋の全体を撮影しましょう。
- 4.被害を受けた部屋の壁の状況をわかるよう撮影しましょう。

Point

- 浸水被害を受けた部屋を撮影する場合は、浸水の深さがかかるよう撮影しましょう。

Point

- 被災した部屋の状況を撮影する場合は、浸水の深さがかかるよう撮影しましょう。

Point

- 被災した部屋の状況を撮影する場合は、浸水の深さがかかるよう撮影しましょう。

6 避難の注意点

「避難」とは「避」を「避」避」することで、行政が開設する避難場所に行くことだけではありません。避難には以下の4つの行動があります。

避難の4つの行動

- 1.行政が指定した避難場所へ立ち寄り避難
- 2.安全な避難場所へ立ち寄り避難
- 3.安全な宿泊施設へ立ち寄り避難
- 4.安全な避難所へ立ち寄り避難

避難の服装

- 避難時は、長袖・長ズボン、手袋、靴を履いてください。
- 避難時は、長袖・長ズボン、手袋、靴を履いてください。

9 情報を入手しましょう

様々なツールを活用して最新の情報を入手しましょう。

LINE

- 1.LINE公式アカウントを「友だち追加」
- 2.公式アプリ「TEPCO速報」をダウンロード
- 3.Twitter公式アカウントを「フォロー」
- 4.HPで「停電情報」を確認

10 消毒方法を確

建物や家具(床・上・下)に水が引いたら消毒と清掃をしましょう。

消毒方法を確認

1.洗浄

2.消毒

消毒液	使用濃度	方法
塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)	0.1%	洗浄のあとに漂白剤を混ぜた消毒液を、床や壁、天井、柱、手すりなどを消毒する。漂白剤を混ぜた消毒液は、換気をしてください。
アルコール	0.05%	石鹸を洗った後、水拭きし、アルコール消毒液を手に取りよくもみ洗いする。
次亜塩素酸ナトリウム(家用塩素系漂白剤でも可)	0.02%	消毒薬を水で薄めた後、清潔な5リットル以上の容器に消毒液を入れ、床や壁を拭き、消毒液を手に取りよくもみ洗いする。

Point

- 消毒に関するお問い合わせ先: 泉区生活衛生課 ☎800-2452